

まうあご むよせい

発行日 2016年9月30日
編集・発行 龍谷大学
矯正・保護総合センター
〒612-8577
京都市伏見区深草
塚本町67 至心館1階
TEL.075-645-2040
FAX.075-645-2632
発行責任者 福島 至
編集担当者 龍谷大学
矯正・保護総合センター事務局

rcrc.ryukoku.ac.jp



2015-2016の活動を振り返って

龍谷大学
矯正・保護総合センター長 福島 至

昨年から、本通信は年1回の刊行となりました。年報となったことを機会に、この巻頭言を、1年間のセンターの活動をご報告させていただく場とさせていただきます。

さて、2015年10月1日には、小川新二法務省矯正局長(当時)にご来学いただき、「矯正行政の現状と課題」についてご講演いただきました(講演記録は、「矯正講座」第35号51頁以下に掲載)。現職の矯正局長さんにご講演いただいたのは、久しぶりのことです。多くの学生の前で、貴重なお話しをしていただきました。当日の受講生の中から、矯正職員を目指す若者が必ずや出てくるものと確信しています。公務ご多忙の折にもかかわらず、時間を割いていただいた小川氏には、心からお礼申し上げます。

同年12月には、恒例の法務省専門職員採用試験等の合格者らによる体験報告会を開催しました。法務教官や刑務官合格の報を受け取ったばかりの現役4回生に報告してもらいました。今後とも、関係専門職への着実な就職に結びつけていきたいと考えております。

2016年2月には、Paix²のお二人をお招きし、ネットワーク講演会を開催しました。私は、いままで公私にわたり、講演会など様々な企画に関与させていただきましたが、ライブは初めてでした。少々不安はあったのですが、ご来場の皆さんの反応が極めて良く、まったくの杞憂に終わりました。彼女たちの誠実で飾らない性格がにじみ出た、いいコンサートでした。終演後、ロビーに出てこられたPaix²のお二人を囲んで、名残を惜しんで多くの方が会場に残っておられました。今回の講演がきっかけで、いくつかの保護司会などから、Paix²を招きたいとの希望が寄せられ、その後、実現したとうかがっています。講演会の所期の目的であるネットワークを作ることの成果も、それなりに達成できたものと思ひ、喜んでおります。当日の様子は本号で再現させていただきます。なかなかライブの楽しさをお伝えし切れませんが、その一端でも味わっていただければ幸いです。

教育活動も研究活動も、順調に進捗しています。矯正・保護課程の受講生数は延べ2万人を超えましたし、新しい研究プロジェクトも発足しました。

来年は、矯正・保護課程の開設40周年を迎えます。矯正・保護総合センター全体で、記念事業を行う予定にしております。引き続き、よろしくお願いいたします。



センター主催 第6回矯正・保護ネットワーク講演会

2016年2月14日に開催しました第6回矯正・保護ネットワーク講演会では、刑務所などの慰問活動を精力的に行い、現在、保護司で法務省矯正支援官にも任命されている歌手のPaix²のお二人をお招きし、「ともに生きる…ほんとうの幸せとは」と題して、歌を交えながら、ご講演をいただきました。当日は、200名を超える方々にご参加いただき、講演会は、盛況のうちに終了することができました。

「ともに生きる…ほんとうの幸せとは」

Paix²

歌手・作家
保護司・法務省矯正支援官

開催日時／2016年2月14日(日) 13時30分～15時45分

開催場所／龍谷大学 響都ホール 校友会館

●開催趣旨

龍谷大学は、100年以上に及ぶ浄土真宗本願寺派の宗教教誨を基盤としながら、1977年に刑事政策に特化した教育プログラムとして、矯正課程(現在の矯正・保護課程)を設置しました。それ以来、刑務官や法務教官、保護観察官などの専門職のほか、保護司や篤志面接委員、BBSなどのボランティアの養成に努めて参りました。

また、2001年には、矯正・保護についての学術研究を推進する矯正・保護研究センターを設置しました。この研究センターは、2002年度からは、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業(AFC)に採択され、8年間にわたり研究活動を行ってきました。

2010年には、矯正・保護総合センターを開設し、矯正・保護課程の教育活動と研究センターの研究活動との有機的な統合をはかることとしました。さらに、矯正・保護の分野における社会貢献活動も、事業の柱として明確に加えることとしました。その一環として、当センターでは、矯正・保護の実務家や関係する行政機関、民間団体、企業家、専門職の方々、地域の方々など、この問題に関心を寄せる多様な人びとに対し、それぞれの思索と相互理解を深めるため、議論・研修の場を提供する事業として、矯正・保護ネットワーク講演会を開催しています。

今回は、Paix²のお二人をお招きし、歌を交えながら、2000年のデビュー以来、およそ15年間で387回(2016年2月14日時点)を数える刑務所などの慰問活動(Prison^{プリズン}コンサート)を通して、感じたことやその思いなどについて、ご講演いただくことにいたしました。

●プログラム

- 趣旨説明
福島 至 (龍谷大学矯正・保護総合センター長)
- 講演者紹介
浜井 浩一 (龍谷大学矯正・保護研究委員会委員長)
- 特別講演(トーク&ライブ)
Paix²(歌手・作家／保護司・法務省矯正支援官)
- 質疑応答

●後援

浄土真宗本願寺派、共同通信社、朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、読売新聞京都総局、日本経済新聞社京都支社、京都新聞、京都府保護司会連合会、京都府更生保護女性連盟、更生保護法人京都府更生保護協会、京都BBS連盟

【講演者紹介】

龍谷大学矯正・保護研究委員会委員長 浜井 浩一

皆さん、こんにちは。私の方からPaix²のManamiさんとMegumiさんのお二人の紹介をさせていただきます。

お二人をこの講演会にお招きしてはどうかということを提案したのは私です。どうしてかという、私は、もともと法務省の矯正職員でしたが、ちょうどお二人が活動され始めた時期と、私が退職をする時期が重なっていて、現場でお二人のコンサートを聴く機会がありませんでした。そこで、今回、お招きすれば、もしかすると歌っていただけるのではないかと期待していました。そして、期待通り、今日は歌の方も披露していただけることになって、非常にうれしく思っております。

もう1点、私も、Paix²のお二人とも、鳥取県の出身です。3年ほど前に、矯正・保護の分野で、ある一定貢献をした人が受賞するという「作田明賞」というものがあるのですが、たまたま、同郷である私たち3人が一緒に受賞したというご縁がありました。

さて、お二人のユニット名は、「Paix²」と書かれています。もともとはフランス語で「平和 (paix)」という意味で、この4つのアルファベット1語で「ペ」で、お二人なので『Paix²』とされたそうです。この名前ですが、Megumiさんが、デビューが決まったときに、「ヒット商品をつくるネーミング辞典」という辞典で、どんな言葉がいいだろうと探していたら、ちょうど「平和」という意味を示す「paix」という言葉にとっても引かれたそうです。ちょうどデビューは湾岸戦争が終わったところで、平和という意味を持つ、

お二人の著書「☆逢えたらいいな」では、お二人がデビューから、今まで、どんなことを考えながら活動されていたのか、いろいろな楽しかったこと、苦勞されたことが記されています。そして、お二人が「Prisonコンサート」と呼んでいる刑務所などの慰問（コンサート）活動を続けてきたからこそ、さまざまな苦勞があっても、自分たちは15年間、続けてこられたのだとおっしゃっています。一口に15年間と言いますが、そう簡単にできることではないと思います。そして、毎回コンサートをとおして、受刑者を元気づけてきたわけですから、そういった貢献活動によって、法務大臣表彰も2回受けておられますし、最近では2014年にワシントン・ポスト誌に、その活動が紹介されました。

また、Paix²のお二人は、2014年から保護司をされ、2015年には法務省矯正支援官にも任命されています。罪を犯した人たちが更生していくためには社会の理解とつながりが不可欠です。この矯正支援官という制度は、単に矯正施設に入っている方々の更生を支援するだけではなくて、国民の皆さんに働き掛けてもらって、施設から出て行く人たちが再び罪を犯さないで済むように、彼らが社会で生活できるように、いろいろな方々の協力が得られる社会的な風土を醸成していくことを目的につくられたものです。もともとは、法務省の特別矯正監の杉良太郎さんの発案で、EXILEのATSUSHIさんや浜崎あゆみさんをはじめ、さまざまな著名な芸能界の方々任命されています。その具体的な活動としては、刑務所や少年院への慰問活動や矯正展でのテープカットなどの行事に参加していただくということになります。ただ、数ある矯正支援官の方々の中でも、Paix²のお二人のこれまでの

この言葉が、自分たちのデュオ名にふさわしいということで決めたということです。

15年前、2000年にデビューをされまして、2001年に、日本コロムビアより「風のように春のように」でメジャーデビューをされました。以後、NHKの教育番組のテーマ曲や、「社会を明るくする運動」のメッセージソングなどを発表され、さまざまな活躍をされており、「Yahoo!」のトップニュースランキングにも登場されています。

しかし、今回われわれがお二人をお招きした理由は、何といっても、その卓越した矯正・保護分野における貢献活動です。2000年にデビューをされて、最初のコンサートが地元の鳥取刑務所で、以来およそ15年間、昨日の京都医療少年院でのコンサートで387回目を迎えられました。これは、すごい数字です。1年間に換算すると、だいたい25回ということになります。北は北海道から南は九州まで、具体的に言うと、網走刑務所から沖縄刑務所まで、日本の矯正施設を、津々浦々回っておられます。私は19年間、法務省に勤務していましたが、お二人が訪問した矯正施設の数には、とても及びません。沖縄刑務所も網走刑務所も、観光に行った際に外から見たくらいで、実際の施設の中を参観したことはありません。そういった意味でも、「すごいな」と改めて思う次第です。

活動実績は群を抜いています。

今日は、そうしたお二人が、どのような思いで「Prison^{プリズン}コンサート」を続けてこられたのかというようなお話をさせていただくとともに、「Prison^{プリズン}コンサート」のように、ここでも歌っていただけることになっています。

それでは、Paix²のお二人によるトーク&ライブ特別講演会「ともに生きる・・・ほんとうの幸せとは」を始めさせていただきたいと思っております。それでは、Paix²のお二人、よろしく願いたします。



講演者を紹介する浜井研究委員長

特別講演（トーク&ライブ） Paix²

Manami: 皆さん、こんにちは。

会場: こんにちは。

Megumi: ありがとうございます。ただ今紹介していただきました、日本コロムビアのPaix²といいます。今日は短い時間ですけれども一生懸命、頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

Megumi: やはり同じ鳥取県出身の浜井先生にご紹介していただくと、私たちの格も、ぐっと上がるように思いますね。

Manami: うれしいですね。

Megumi: 後ろで浜井先生のお話をお聞きしてまして、緊張しすぎて出て行くのをどうしようかと。私たちは、このまま、ずっと出ないで、浜井先生にお話をさせていただいた方がいんじゃないかと思っていました。

Manami: すみません、こんな感じですが、はじめさせていただきますと思います。まず、ご挨拶代わりに1曲お届けしたいと思います。これは嫁いでいく女性の気持ちを書いた曲です。皆さま、曲の始まりと終わりは大きな拍手をよろしくお願ひいたします。では、聴いてください。「ふるさと発あなたへ」。

曲 ♪ 「ふるさと発あなたへ」 ♪

Manami: 私たち二人はPaix²という名前でも活動していますが、二人の個人名も、ぜひ覚えてください。私がManamiといいます。

Megumi: そして、私がMegumiです。

Paix²: どうぞよろしくお願ひいたします。

Manami: 実は二人とも鳥取県出身ということで活動していますが、私は父が京都の出身なので、数年前まで本籍も京都に置いていました。しかし、いろいろ大変なことも出てくるので、つい最近、今の住んでいるところに本籍を移そうかと思い、鳥取県に移しました。ですので、私は今回この京都で歌わせていただけたということが、すごくうれしいです。

Megumi: 最初は恋愛の歌を聴いていただきました。続いては、少しテンポのいい曲を歌いたと思います。歌は「夏雲」というタイトルになります。ぜひ、この歌のとき手拍子をしていただきたいと思います。私はフルートも演奏させていただきます。通常は皆さん、お話だけの講演会が多いと思いますが、私たちは歌手なので、歌を盛り込みながら、お話もたくさんさせていただきたいと思い、こんなスタイル



フルートを演奏する Megumi さん



トークをする Paix² のお二人

で行ってみたいと思います。ぜひ皆さん、一緒についてきていただければと思います。

Manami: それでは、リズムがいい曲を歌いたと思います。皆さま、手拍子もよろしくお願ひいたします。聴いてください、「夏雲」。

曲 ♪ 「夏雲」 ♪

Manami: 私たちは、今年で日本コロムビアからメジャーデビューして、15年が経ちました。

「^{プリズン}Prisonコンサート」と称しまして、デビュー当時から全国の刑務所、少年院にお邪魔していますが、最初は、勉強になるかもしれないという思いで、お邪魔しました。

それまでは、小学校や中学校で、どちらかと言うと、お子さん向けに歌っていましたが、少し大人のところでやってみようと思い、最初は、ふるさとの鳥取県、鳥取刑務所にお邪魔しました。このときが、もう今から15年前、たぶん当時、若い女性が来るのがなかったと思うので、すごく喜んでもらえました。

Megumi: 当時ですからね。

Manami: 今も喜んでもらっているとは思いますが。

Megumi: そこを強調しないと。

Manami: 遠目から見れば大丈夫かなという。

Megumi: 遠目からはね。

Manami: それで、すごく喜んでもらえて、こんなに喜んでもらえるのだったら、もっと回数を増やしてもいいかなと思いました。また、私たちも何か一つ武器になるものが欲しくて、特徴づけることをしようと思い、それならば、全国の刑務所にお邪魔してみようと、無料で伺いますので、いかがですかという感じで全施設にダイレクトメールを送ったのがきっかけでした。しかしながら、最初は、やはり施設側も、どういう人物かが分からなかったみたいで、無料といっても、なかなかお呼びが掛かりませんでした。少しずつ呼んでいただける施設が増えてきました。そうすると、施設同士の口コミで、どんどん全国に広まっていったという感じです。実は、最初の1年間は、同業者の方には、少し馬鹿にされていたというか、「どうしてそういうところで歌うのか」と言われたりしました。「刑務所で歌ったところで歌が広まるわけでもないし、CDが売れるわけでもないし、そういうところで歌って何の意味があるのか」と、だいたい言われました。

1年ぐらい経ったころ、私たちも、もうこれは辞めた方がいいんじゃないかと、いろいろな話もしました。しかしながら、私たちの歌を聴いた人たちが、だんだん社会に復帰して、再会することがあり、やはり頑張ろうという気持ちになりました。

私たちは、この活動があるからだと思うのですが、人権のコンサートなど、これまでいろいろなイベントにも呼んでいただきました。おとしは「全国障害者芸術・文化祭」に呼んでいただきました。これは毎年各都道府県が持ち回りで開催しているもので、おとしは鳥取県が開催地でした。私たちは鳥取県出身だということで、そのテーマソングを歌わせていただきました。オリジナルの曲ではないのですが、今日は、その曲も歌わせていただきたいと思います。

Megumi：この歌のタイトルは「あなたと一緒に歌いたい」です。これから、この歌を歌わせていただきますが、その大会に合わせて私たちに手話を覚えてほしいというお話をいただきましたので、実は手話を用いて歌を歌っています。せっかくですので、今日は皆さんにも歌の一部分で、手話に参加していただきたいと思います、皆さん、いかがでしょうか。

Manami：やっぺくださいますか。

会 場：(拍手)

Paix²：ありがとうございます。

曲 ♪ 「あなたと一緒に歌いたい」 ♪

Manami：すごいですね。歌を知らなくても、手話で皆さんと一緒に参加していただけるのが、すごくうれしいです。

Megumi：結成したのが2000年で、日本コロムビアからデビューしたのが2001年になるのですが、その2000年から「Prisonコンサート」と題して全国の矯正施設で本格的に活動をさせていただいて、今のところ、387回のコンサート回数になっております。

実はこのコンサートを継続して全国的に開催しているということになったときに、まず音響機材、歌うための機材があるかどうかということが、歌手として一番気になったところだったんですね。

矯正施設で歌うとなると、音響機材はないだろうから、自分たちで音響機材を持って一緒に全国をまわらないといけません。ですので、結成当時から、実は北海道から鹿児島までは音響機材と共に、全国を車で移動してきました。

Manami：その走行距離は、おそらく120万キロ以上は走っているかと思いますが。今、会場からどよめきがありました、やはりすごいですか。

Megumi：車を運転される方は、そのような距離は乗らないと思いますが、私たちは、数万キロだと「まだまだ乗ってないね」というぐらいの感覚で、これまで利用してきた車は、1台35万キロは乗っています。そうやって、音響機材と共に、全国で音楽活動をしています。たくさんの方と触れ合って、いろいろな思いになって、15年目を迎えたときに、どういう形が一番の幸せということなのかを、考えるようになってきました。

そうしたことから、デビュー15年を記念して「しあわせ」というタイトルのCDを昨年の6月に出すことができました。続いては、その中の楽曲を披露させていただきます。

まず、歌わせていただく楽曲は「歌いたい」という歌です。こんなタイトルの楽曲なので、楽しい楽曲が盛り込まれているのではないかと恐れがちですが、実はこの歌は、心の葛藤を歌ったものです。苦しかったり、悲しかったり、怒りであったり、そういう気持ちは大人になると表現することが、あまり好ましくないようなところがあって、心にぐっとしまいこんで、出すことがなかなかできなくて、どうしようもなく葛藤することも多くなってくるのではないかと思います。

そういう思いを歌詞に重ねていただいて、そこで何かを見つけていただければ、うれしいです。それでは、「しあわせ」の中から、まずはこの歌を聴いてください。「歌いたい」。

曲 ♪ 「歌いたい」 ♪

Manami：続きまして、同じ「しあわせ」というミニアルバムの中に入っている、この曲を聴いていただきたいと思います。「幸せでありますように」。

曲 ♪ 「幸せでありますように」 ♪

Manami：施設にお邪魔すると、いつも思うのが、「どうして、こういうところに皆さんは来てしまったのだろう」というのが、正直な感想です。特に少年院などに行きますと、本当につらくて。

私たちが初めて少年院に行くことになったのは、本当にデビューしてから間もないころでした。そうしますと、少年院に入っている少年と私たちは、あまり年齢が変わらないわけです。

Megumi：当時は。

Manami：はい、当時は。

会 場：(笑い)

Manami：モチベーションといいますか、どう歌ったらいいんだろうとすごく悩んだりもしました。少年院へ行くことが決まったときは、街のものすごい不良たちが入っているところだろうから、私たちが行っても、態度はすごく悪いらうし、聴いてもくれないのではないかと、すごく勝手なイメージを持っていました。

けれども、実際にお邪魔してみると、まったくそうではな



ギターを弾きながら熱唱する Manami さん

く、少年たちは背筋を、ぴんと伸ばして、食い入るような感じでステージを見てくれるのです。成人の施設ではできないことですが、少年の施設では、許可をもらって、ステージから降りて、少年一人ひとりと握手をさせていただくのですが、そのときも、ちゃんと目と目を見て、しっかり握手をしてくれるのです。

これにはすごくびっくりしました。目だけを見ていても素直そうに見えるし、なんでこういう子たちがここに来たんだろうと思いました。そのときに、そうか、少年院というところでは先生方が、しっかり指導してくれて、良いこと、悪いこと、マナーなど、いろいろなことを教えてくれるから、ここでは、ちゃんとみんな真つすぐいられるんだと思いました。

じゃあ、社会だったら、どうなのか。社会だと、もしかしたら、本当は、つらいことがあったときに相談できる大人だったり、親だったり、先生だったりがないかなと思ったのかなとすごく感じました。

最近、少年院に行きますと、先生方が、いろいろなお話をしてくださいます。家庭環境が、やはり恵まれない子たちもいると。その中でも、私が聞いて、結構、衝撃だったのは、少年院に本人が入っていて、少女苑にお姉さんが入っている。実は、その両親二人とも刑務所に入っているという話でした。

この子たちは、ものが食べられなくて窃盗をし、結局は少年院と少女苑に入ってしまうのですが、そういう家庭環境の子がいたり、やっとお母さんが面会に来てくれたのに、「お父さんにお金を貸してくれて伝えてね」とだけ言って帰っていかれるお母さんがいたり、そういう環境の中では、本当につらいんだろうなと。

つらいのが、その子たちにとっては当たり前だから、その境遇で生活をしていて、やはり少年院という場所に来てしまうのでしょうか、これは私たち大人が何とかしていかなければいけないのではないかと本当に思いました。

Megumi : こうやって本当に深いところまで私たちは考えたり、この活動を通して勉強しながら、いろいろ感じたり、それから先、何ができるのだろうかと考えながら活動してきました。けれども、片や矯正施設での音楽活動はボランティア活動になります。勉強していくことにより、私たちに蓄積されていくものがある一方で、減っていくものもありました。お分かりでしょうか。そう、経済力が、だんだんなくなっていくわけです。

Manami : 本当に最初のころ、じゃあ、刑務所に行く回数をたくさん増やそうとなったときに資金源をどうするのかという話しになりました。当時、私たちはやはり世間で知られていなかったので、営業自体ものすごく少なくて、その少ない営業でいただいたお金を全額つぎ込んで全国の矯正施設を回るようになりました。そして、車で移動することになるのですが、高速道路には乗れませんでした。

Megumi : 当時ありましたね。

Manami : もう本当に、ひたすら一般道を走って、東京・鳥取間がだいたい800キロぐらいありますが、その辺ぐらいは、もう一般道で、ずっと行っていました。

Megumi : これも若さだから、できたんだと思いますよ。今、してくれと言われたら大変でしょうね。

Manami : 気づいたら自分たちの貯金も、全くなくなっていましたね。本当に、こういう苦労話はしてはいけないのではないかなと思って、ずっと言わなかったんですけども。

Megumi : でも、もう年齢を重ねたからいいのかなと。

Manami : 最近は少しこうした話しも皆さんに隠さず言っていこうと思ひまして。

Megumi : 今日は、私たちの楽曲を披露させていただきだけではなく、少しカバー曲も入れたいと思います。続いては、今お話しさせていただいた内容と結びつけたいと思います。ウルフルズさんの曲を歌わせていただきます。

Manami : ウルフルズさんでお金の話となれば、たぶん、もうご存知の方もいらっしゃるかな。はい。では、皆さん、手拍子をよろしく願ひいたします。聴いてください、「借金大王」。

曲 ♪ 「借金大王」 ♪

Megumi : 「借金大王」と言われぬように頑張っていきたいと思ひます。カバー曲で手拍子をしていただいて、少し空気が変わったところで、私たちのオリジナル曲に戻って歌ってみたいと思ひます。

続いて歌わせていただくPaix²の楽曲は「元気だせよ」という歌です。ちらっと拍手が聞こえました。ご存知の方がいて、うれしいです。この歌を歌うときに、私たちは振り付けをさせていただくんです。

Manami : 何回も同じフレーズで、「♪元気だせよ」というところがあります。そこで振り付けがあります。もうお分かりですね。じゃあ、今日は、この振り付けを皆さんにも一緒にやっていただきたいと思ひますが、やってくださいませんか。

会 場 : (拍手)

Manami : よろしく願ひします。少し練習してみたいと思ひます。皆さま、拳を用意してください。そして2回、上に振りあげます。行きます。「♪元気だせよ」。

曲 ♪ 「元気だせよ」 ♪

Manami : 素晴らしかったです。会場全体が一体になった感じが、とてもうれしいです。皆さま、元気が出ましたでしょうか。

会 場 : (拍手)

Manami : うれしいです。この曲はどこでも歌える曲で、しかもデビュー曲なので必ずステージで1回は歌っています。



会場と一体となって歌うPaix²のお二人

ただ、どうしても迷う場所がありました。それは東日本大震災の後にお邪魔した東北でした。この曲は歌わない方がいいのではないだろうかとすごく迷いました。私たちは震災から1カ月も経っていないときに、鳥取県が担当していた宮城県の気仙沼の方にお邪魔しました。

そうしたら、やはり体育館で毛布だけを敷いて、そこで生活を送っていらっしゃいました。本当に2畳もないくらいの場所、空間でした。そこで「じゃあ、歌ってください」という感じでした。

行く前までは、「絶対この曲は歌おうよ」と言っていたのですが、やはり現状を見てしまうと、これは私たちが東京から来て、軽々しく「元気だせよ」という言葉を口にしてはいけけないのではないだろうか、とすごく悩んで、二人で何度も話し合いました。だけど、もしかしたら笑顔になってくれる時間になるかもしれないので、思いを込めて歌おうよということで歌ってみました。

避難所の皆さんは疲れており、横になっていましたが、この曲のときは皆さんが起き上がってくれて、一緒に、拳を振りあげてくださいました。これがすごくうれしくて、皆さんの笑顔が少しでも見られたらと思って、これはよかったなと思いました。

帰り際に60歳代ぐらいの男性に呼び止められました。「僕は、ここにいる避難所のみんなに、ずっと、この『元気だせよ』という言葉を書いたかった。でも、みんな親も、きょうだいも亡くして、家も車もなくして、大切なもの全部なくして、なかなか言うことができなかった。でも、今日はPaix²が来て、みんなと一緒に、こうやって拳をあげられたことが、すごくうれしい。自分も全部なくして、マイナスからのスタートだけれども、少しでも前に進めた気がする。」と言ってくださったときには、私たちも本当に胸が熱くなりました。

会場：(拍手)

Manami：ありがとうございます。今、いろいろなことがニュースで流れています。世界中のいろいろなところで、地震があったり、火山が噴火したり、水害があったり、いろいろな出来事を通して命の大切さを、あらためて感じるものが多くあります。特に最近が多いなと感じます。

そういう思いもあったので、皆さんが、よくご存知の、あるアーティストの方の歌を、実は私たちは歌わせていただいております。その方は、さだまさしさんです。皆さんが知っている歌手のお一人だとは思いますが、さだまさしさん作詞作曲の「いのちの理由」という楽曲があります。その楽曲をPaix²も歌っております。この楽曲はデビュー10年を記念してCDを出そうという思いになったときに、命の大切さを歌った楽曲を入れたいと思い、さだまさしさんに直接お話をしにいったところ、うれしいことに私たちの存在を知ってくださっていて、「そういう活動をしているPaix²だったら歌ってもいいよ」と言ってくださって、私たちも歌わせていただいております。

続いては、この曲を聴いてください、「いのちの理由」。↗



熱唱する Paix² のお二人

曲 ♪ 「いのちの理由」 ♪

Megumi：矯正施設での活動を、よくコンサートの中でお話をするので、Paix²の歌は刑務所に行かないと聴けないのかと言われることもありますが、実は、いろいろな場所でもコンサート活動をさせていただいています。そんな中でたくさんのお会いがあって、楽曲に巡り会ったり、お話をいただいて、いろいろな場所で歌を歌ったりしてきました。しかし、デビューして3年間は、なかなか私たちが思うような結果が出なくて、音楽活動をしていても、この先のPaix²の歌手としての未来はどうなるのかなという不安も持ちながら音楽活動をしていました。

3年経ったときに、大きなお話がやってきました。それは、NHKの教育番組で、「ひとりでもできるもん!どこでもクッキング」という番組のエンディングテーマ曲を歌わないかというお話でした。

このお話をいただいた作詞作曲家の方が、やはり私たちの活動をご存知で、CDを聴いてくださって、この二人に歌わせようと思っていただき、歌うことができました。

その歌は「SAYいっぱいを、ありがとう」というタイトルです。この楽曲をいただいて、テレビから私たちの曲が流れたときに、途中で諦めなくて本当によかったなという気持ちにさせてもらった最初の楽曲になります。

よくこのお話をするときにはさせていただくのですが、石の上にも3年という言葉通りで、本当に、何かやり始めて、今年も、あまり結果が残せなかったなと思いつつも、でも、やめずに続けてきたからこそ、こうやって結果が出るんだなと思うと、その言葉の意味を私たち自身の活動を通して実感することができました。

続いては、そのエンディングテーマ曲になった楽曲を歌わせていただきたいと思います。聴いてください、「SAYいっぱいを、ありがとう。」

曲 ♪ 「SAYいっぱいを、ありがとう」 ♪

Megumi：これまでに私たちはCD以外にも、本を書かせていただく機会にも恵まれて、実は2冊、本を書かせていただいております。

初めて書いた本のタイトルが、今歌わせていただいた「SAYいっぱいを、ありがとう」で、2冊目の本が「逢

えたらいいな」というタイトルの本です。

私たちの本には、いろいろな音楽活動をしながらの思いや出来事、そのときの写真などが載っているわけですが、こうして活動をしていると、たくさんの方から、いろいろな思いのお手紙やメールをいただくことが多くなりました。本を出すことが決まったときに、その中の1通を本の中に掲載させていただいています。

今日は、この場を借りて、この本の中にあるメッセージを紹介させていただきたいと思います。

Manami：これは受刑者の娘さんからいただいたものです。

Paix²さん、こんにちは。この前テレビで、Paix²さんを見ました。元気かなと思い、久しぶりにホームページに書き込みに来ました。

実は先月、父のところに初めて面会に行ってきました。母も私も弟も、父のことは絶対に許さないと思っていたのですが、あれから2年半が過ぎて、近所の人たちも友人も、やっと普通に接してくれるようになりました。

新聞やテレビで父の事件が報道されたときには、家族みんなで死ぬことまで考えたのですが、母が「時間が薬だよ、みんなで頑張って生きなければ」と言っていて、私たちのために働いています。私は学校を退学して、今は働いていますが、弟は元気に学校に行っています。

父のことは絶対に許さないと思っていたのですが、ふと母が「お父さんに会いに行こう」と言ったので、父に対する恨みや思いを言ってやろうと思い、初めて北海道に行きました。

面会室の父は笑顔で迎えてくれましたが、「元気か」と言ったきり何も言わずに泣いていました。母も私も泣きました。何だか小さくなった父を見ていて、この人は私のたった一人の父親なんだと思った瞬間、私は声を出して泣いてしまいました。

お互いに言葉も少なく、面会時間はあっという間に終わってしまったのですが、母が最後に「お父さん、みんな、待ってるよ」と言ったのです。父は「うん、うん」と何度も、うなずきながら、職員さんに促されて、扉の向こうに、振り返りながら消えていきました。

私はその姿を見ながら、とても父のことを大切に思いました。たった一人の父が間違いを犯してしまい、被害者の方の気持ちを考えると、決して許されることではありませんが、家族として、その罪を一緒に背負っていかねばならないと思っています。まだまだ先も長く、父の人生の中で再び手を取り合える日が来るのかどうか定かではありません。でも、もし、そうなった日には、笑顔で父を迎えることができる自分になれることを信じて日々を過ごしています。

私の気持ちを聞いてくれてありがとうございます。Paix²さんも頑張ってくださいね。私も頑張ります。

というメッセージをいただきました。

Megumi：本を出すまでに、こんな思いのメッセージをいただいていた、この女性の方が久しぶりに私たちの元にメッセージを送ってくださいました。今日は、それも併せてご紹介させていただきたいと思います。

今日のご報告があり、メールをさせていただきました。父の体に異変があり、検査をしてもらった結果、末期の胆のうがんでした。この時点では本人に初期がんと伝えられていましたが、すでに末期でした。その後、医療刑務所に移送していただき、こちらでは本当によくしていただきました。年齢的には手術は難しく、余命数カ月とのことでした。

急変した今月、急いで施設に伺いました。前日まで意識もなかったとのことですが、私たちが行くとき車いすで出迎えてくれました。「絶対に治す」、この言葉も虚しく亡くなりました。あと4年で満期でした。せつかく14年も頑張ったのに。父は何を思い、どんな気持ちだったのかな…なんて考えてしまいます。

事件の遺族の方々の悲しみ、苦しみ、怒りは、一生、消えないと思いますが、どうか父を許してあげてくださいと思うばかりです。これは都合のいい考えですけれど、父を許してくださいと願うばかりです。

今日、茶毘に付し骨になった父ですが、やっと私たちのところに戻ってきてくれました。父が事件を起こし、そんな悲しい縁ではありましたが、Paix²さんと出会えたことは本当に宝です。これからの活躍を楽しみにしています。

というメッセージを送ってくださいました。

このメッセージをいただいたときに、被害者の方の思いを考えると素直に受け入れることができない内容だとは思いますが、私自身は、生きて、社会で、この娘さんとお父さんは出会ってほしかったなと思いました。

このように、この彼女からメッセージをいただいたときに、大切なことは自分の大好きな人と、ずっと一緒にいられることが幸せということなのかなと感じました。

今回、私たちがデビュー15年を記念して出したCDのタイトルにもさせていただいたのが、この「しあわせ」です。あらためて幸せについて考えてみると、普段、生活をしていると、自分自身は本当に幸せだとずっと思い続けることは難しく、どちらかというところ不平不満が出てしまって、こういうことだから幸せじゃないんだよなと思うことが多くなってしまっているのではないのでしょうか。けれども、実はそうではなくて、感じようと思えば、自分の周りに幸せはたくさんあって、そんな、周りがある幸せをたくさん感じて生きていくことが幸せということで、そう感じながら生きていくことができることで自分らしい人生を歩んでいけるということなのかなと、彼女からメッセージをいただいたときに、そう思うことができました。

いろいろな方の思いにも触れている私たちですが、人との出会いだけではなく、言葉との出会いもたくさんあって、そんな出会いの中から生まれた楽曲もあり

ます。その楽曲のタイトルは「ともいき…未来へ」というタイトルです。

「ともいき」という言葉に出会って完成したのですが、あらためて共に生きるということについて考えてみると、まずは自分と誰かと一緒に生きる「共に生きる」。よく考えると、大自然と自分も一緒に生きているし、ベットと自分も一緒に生きているし、本当に共に生きるって、いろいろな角度から感じるができるんだなということ、あらためて知ることができました。

そうした中で、それだけではなくて、もう一つ、あるんじゃないかと思って出た答えがあります。それは、自分自身とどう生きていくかという「共に生きる」も大切なんじゃないかな、そんなことを感じながら、この楽曲を歌っています。

本来は長い楽曲ですが、本日はライブバージョンで、この楽曲をお届けしたいと思います。聴いてください、「ともいき…未来へ」。

曲 ♪ 「ともいき…未来へ」 ♪

Megumi：今日も演題として「ともに生きる」と書いていただいています。こういう思いでこの楽曲を歌っていたのですが、あらためて、共に生きるということを考えてみると、やはり社会で生きていく中では、いろいろな人との関わりなくしては生きていくことができないと思いました。矯正施設でのコンサートをしなが、いろいろな立場の方の思いを知って、こうやって継続できてきたというのは、そのことに興味を持って活動してきたからこそ、こうやって継続できるのだということを感じています。

そんな経験を踏まえて、いろいろなことに興味を持って生きていくということが、少しでも穏やかに過ごせたり、平和に過ごせる、きっかけになるのではないかと、今回のこのステージをさせていただく中でまとまった私の思いです。

いろいろな私たちの歴史であったり、思いであったり、歌の内容を今日ステージでお届けさせていただいたわけですが、そもそも私たちが出会ったのは、インディーズとしてデビューした2000年の、さらに2年前でした。ふるさと鳥取県であった音楽祭に、実はそれぞれがエントリーをしていて、続き番号だったので、お互いに顔を合わす程度でした。音楽祭なのでライブ同土ですよ。

そんなに深くは会話することもなく、その大会に出場して、大会の後に、二人でやってみたらどうかというお話をいただいて、Paix²として音楽活動をしていくようになりました。

これは、ある程度、年齢が分かってしまうようなお話になってくるとは思いますが、当時は、ふるさとでお互い仕事をすでにやっていました。Manamiさんが、大学の固体地球研究センターというところで実験の助手をやっていました。

Manami：地球はどうしてできたのかということを研究している施設で、実は世界的にも有名な機材がたくさん置いてあ

りまして、世界各国から研究生が来ていました。私が辞めた後の話ですが、「はやぶさ」がイトカワという砂を持って帰りましたね。その砂の一部や、ロシアに数年前に落ちました大きな隕石の一部が、私が働いていた研究所に持ちこまれました。あらためて、すごいところで働かせてもらっていたんだなと思いました。

Megumi：私は看護師として仕事をやっていました。看護師をしていた期間は、たった3年間だったのですが、その間に、いろいろなことを学んだので、それをよくPaix²のコンサートの中でお話させていただいています。当時は重症の患者さんがいる入院病棟に3交代制で働いていました。私がいたところは、重症の患者さんだったので24時間、看護が必要な患者さんがたくさんいらっしゃいました。病気が急変をすると、すぐに家族の方に連絡をしないといけないのですが、家族の方が連絡をしたときに、「看護師さん、様子は分かったんだけど、すぐに病院に行けそうにないし、あとは看護師さんの方でお願いできませんか」と言われる家族の方がいました。

そのときの患者さんは、たった一人で旅立たれていきました。そうかと思うと、たくさんの方が病院へいらっしゃって、ベッドの周りで皆さんが涙を流されて、そんな中で旅立っていられる患者さんもありました。

当時、看護師という立場で、いろいろな患者さんの最期に立ち会って、私は、人っていうのは生きてきたように死んでいくのかなということを感じました。これは全ての人に当てはまるわけではないとは思いますが、人間の一生、生きざまは死にざまなのかなということを私は看護師という仕事を通して学んだような気がします。

今日こうして歌やお話をさせていただいておりますが、そんな時間も、次に歌わせていただく歌でお別れの楽曲になります。最後に選ばせていただいた楽曲は、先ほどManamiさんが読みました本のタイトルでもあり、歌のタイトルでもある、「逢えたらいいな」という歌を歌わせていただいて、お別れとさせていただきたいと思っています。それでは聴いてください、「逢えたらいいな」。

曲 ♪ 「逢えたらいいな」 ♪

Paix²：ありがとうございました。



福島センター長より花束を贈呈されるPaix²のお二人



第7回 矯正・保護ネットワーク講演会開催案内

主催：龍谷大学矯正・保護総合センター

テーマ

「薬物依存からの立ち直りについて」

参加費
無料

要事前申込

先着300名様

2017年 2月18日(土) 13:30~15:45 (開場 12:30~)

■講演

「薬物依存からの立ち直りについて」

近藤 恒夫 氏 (日本ダルク代表)

■対談

登壇者：近藤 恒夫 氏 (日本ダルク代表)、
田代 まさし 氏 (日本ダルクスタッフ/元タレント)
(進行役：石塚 伸一 龍谷大学大学院法務研究科教授)



龍谷大学 響都ホール 校友会館
(京都市南区東九条西山王町31 アバンティ9階)
JR京都駅八条東口より徒歩約1分



近藤 恒夫(こんどう つねお)

1941年秋田県生まれ。1980年札幌拘置所出所後、ロイ神父と共に依存症の施設を設立。1985年民間薬物依存症リハビリセンターを設立(DARC)。1990年パチカンローマ法皇庁にて薬物施設日本代表として参加。1994年第9回東京弁護士会人権賞を受賞。2001年第35回吉川英治文化賞を受賞。2006年法務省矯正局東京管区長賞を受賞。2013年第4回作田明賞最優秀賞を受賞。



田代 まさし(たしろ まさし)

1956年佐賀県生まれ。愛称「マーシー」。24歳の時、チャンネルズでメジャーデビュー。その後芸能界にも進出、人気者に。しかし2001年覚醒剤で逮捕、その後2回の覚醒剤での逮捕により計7年間の刑務所へ。出所後薬物依存症からのリハビリ施設「DARC」でプログラムを受けながら、全国各地の講演などで、薬物依存症からの回復を精力的に伝えている。

参加お申込み

参加をご希望される方は、事前にお申込みが必要です。

インターネットから

- ①矯正・保護総合センターのホームページ(<http://rcrc.ryukoku.ac.jp/>)上部にある「お申し込み」ボタンをクリックしてください。
- ②「お申し込み」フォームの必要事項(名前・住所・メールアドレスなど)を入力した後、送信ボタンをクリックしてください。
登録されたメールアドレスに受付完了メールを返信いたします。

FAXから

以下の参加申込書に必要事項をご記入の上、送信してください。

お問い合わせ

龍谷大学 矯正・保護総合センター
TEL:075-645-2040 FAX:075-645-2632
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
<http://rcrc.ryukoku.ac.jp/>
E-mail: kyosei-hogo@ad.ryukoku.ac.jp

2017年2月18日 第7回矯正・保護ネットワーク講演会参加申込書

フリガナ	当てはまるものに○をしてください。						
お名前	性別	男・女	年齢	10代	20代	30代	40代
				50代	60代	70代以上	
ご住所	〒						
電話番号	FAX番号						
メールアドレス	ご所属・ご職業 (差し支えなければ)						



075-645-2632



研究プロジェクト紹介

刑事司法未来プロジェクトの取り組み

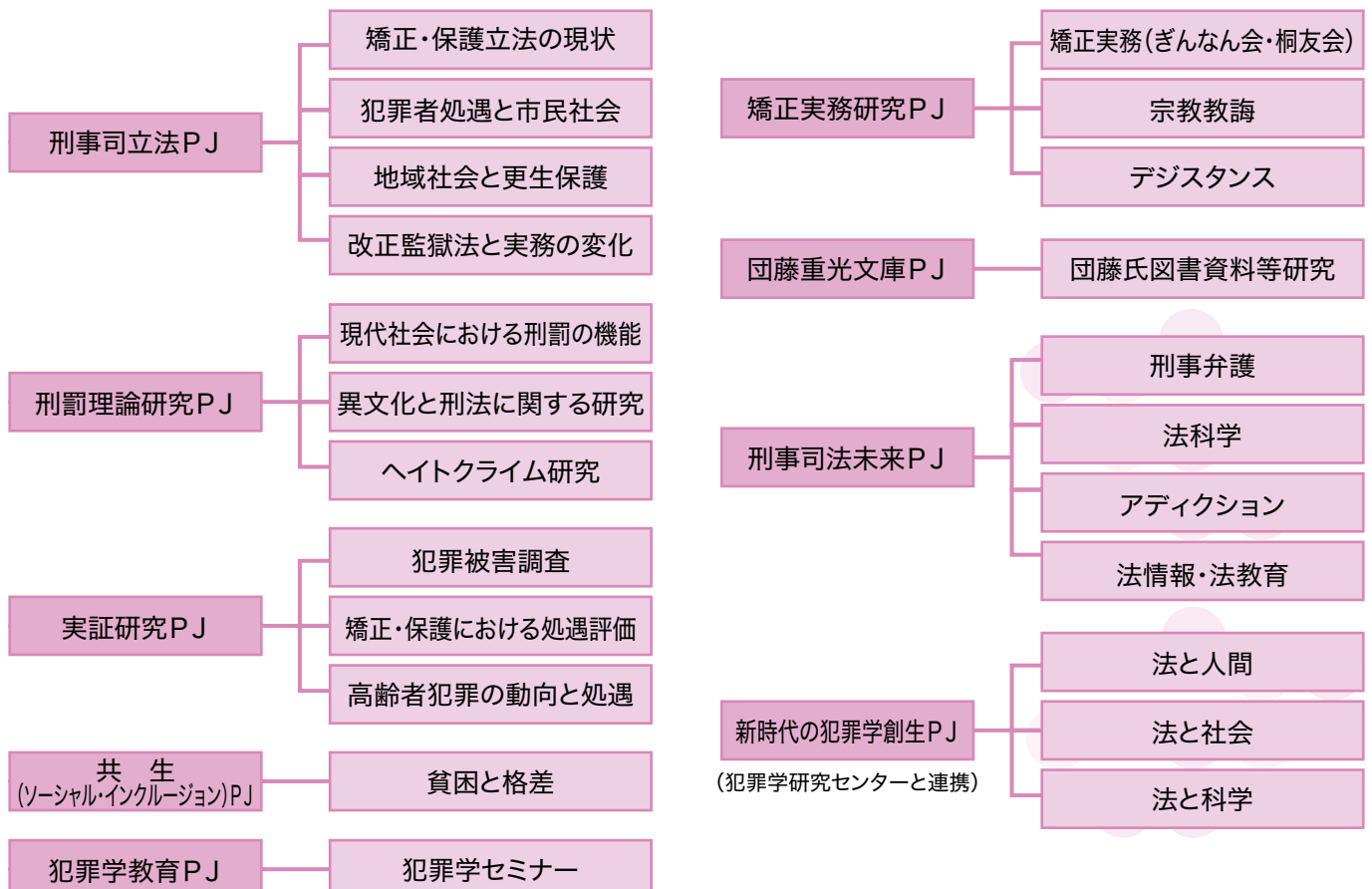
今年4月、弁護士の金子武嗣氏から学校法人龍谷大学に対して、未来の刑事司法を支える人材養成を目的に寄付金をいただきました。矯正・保護総合センターでは、その寄付金を原資に新たなプロジェクトとして刑事司法未来プロジェクトを立ち上げました。

この刑事司法未来プロジェクトには、①刑事弁護、②法科学、③アディクション、④法情報・法教育の4つの研究プログラムがあります。

- ①刑事弁護プログラムでは、刑事弁護の現状と課題を明らかにするために、実務家や研究者、司法修習生、大学院生等を対象として、リーディング・ケースとなるような具体的な事件を素材として研究会を開催します。また、若手弁護士を対象とした刑事弁護初任者向けの研修カリキュラムを構築し、それに基づいた研修会や、薬物事犯や累犯窃盗（クレプトマニア）、刑事政策、犯罪学、司法福祉などの基礎的・実践的知識を習得するための研修会を開催します。そして、無辜の雪冤の実現に貢献できる弁護士を養成するために、世界的に広がりつつある、DNA型鑑定を利用した冤罪救済運動「イノセンス・プロジェクト」に関する研修会を開催し、「日本版イノセンス・プロジェクト」を支援していきます。
- ②法科学プログラムでは、法科学の発展に寄与するための研究会を開催します。昨今、DNAによる個人識別、蛍光X線分析の物質同定、心理学による供述分析等、画期的な科学技術の進歩により、刑事裁判の科学化が進展しています。そのような最新の技術や知見を実務家や研究者と共有していきます。また、日本における「死刑の公正と適正手続」の充足状況を調査（死刑適正手続プロジェクト）し、国内外の関係組織と連携しながら、国際的な学会や集会において報告するとともに、情報発信するための研究グループを組織していきます。
- ③アディクションプログラムでは、ドラッグ・コート導入の可能性のほか、日本における薬物依存者の社会復帰に必要な受け皿と具体的な処遇プログラムの検討を行います。また、物質依存に関する調査研究を実施し、その成果を国内外の学会で発表するとともに、薬物依存回復支援者養成セミナー「薬物依存症回復支援（Drug Addicts Recovery Supports : DARS）」を開催します。
- ④法情報・法教育プログラムでは、本プロジェクトの研究成果を、中高生や大学生、一般市民等広く社会に還元するために、刑罰の執行と社会内処遇に関する教育機会や、裁判員制度など司法に関する知識理解の促進を目的としたセミナー・シンポジウムの開催や、将来の裁判員を養成するため、小中高生向けカリキュラムや教育教材開発の調査研究を行います。また、法情報学の研究者、ライブラリアン、リーガル・ジャーナリスト、情報関連企業関係者などを構成メンバーとして、法情報に関する理論的・実践的研究を行います。その成果は、専門書・啓蒙書を出版するとともに、ウェブでの情報や映像を提供します。

以上、本プロジェクトでは、4つのプログラムを展開するなかで、未来の刑事司法を支える人材養成に貢献していきます。

2016年度 矯正・保護総合センター研究プロジェクト



You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY



新刊情報

『龍谷大学矯正・保護 総合センター 研究年報 第5号 2015年』

[編集発行者] 龍谷大学矯正・保護総合センター
[発行所] 株式会社 現代人文社
[発行日] 2015年12月27日発行



ISBN978-4-87798-628-5

『矯正講座 第35号 (2015年)』

[発行者] 龍谷大学矯正・保護課程委員会
[編集者] 矯正講座編集委員会
[発行所] 成文堂
[発行日] 2016年3月20日発行



ISBN978-4-7923-3347-8



龍谷大学 矯正・保護総合センター

- 京阪「深草駅」下車徒歩8分
- JR奈良線「稻荷駅」下車徒歩13分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋駅」下車徒歩5分

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67 至心館
Tel.075-645-2040 Fax.075-645-2632
URL <http://rcrc.ryukoku.ac.jp/>
E-mail kyosei-hogo@ad.ryukoku.ac.jp